

リレー連載
物流から見た
道路交通計画 ①

道路交通計画
には2本の柱

わが国の道路交通計画は長い間「移動したい人」のためにモビリティ（mobility：移動性、可能性、可用性）が重要な課題（mobility）を確保することが課題だった。このための施設として高速道路、歩道や自転車道、道の駅などが代表的だ。今後も障害の有無、年齢、性別、国籍などを超えて、モビリティの確保は「人の交通」の重要なテーマであり続ける。



苦瀬 博仁氏（くせ ひろひと）51年生まれ。早大院博士課程修了。工学博士。流通経済大学教授、東京海洋大学名誉教授

一方で、「移動したくない人」や「移動できない人」には、自らは移動せずに商品や物資を入手できる「モバイルリテラシー（availability：入手可能性、可用性）」が重要な課題だ。

その昔、川や井戸へ水をくみに行く代わりに水道を引くことが文明の証だったし、現代では、書店に出掛けずにインターネット通販で本を宅配してもらえ、このように、「モバイルリテラシー」の確保は「物の交通」の充実でもある。

「動ける」から「手に入る」に ～はじめに～

第1回

物資は自分で動けない
人と物と比較すると、人は自ら移動できるが、商品や物資は赤ちゃんと同じように、話すことも

歩くことも着ることもできない。それゆえベビーカーと一緒に移動する時と同じように、荷降ろしや仕分けのための荷さばき場や、台車用スロープ、荷役用エレベーターなどが

が必要になる。このため物流事業者にとって、道路は、輸送時に通行するだけでなく、発地での積み込みや着地での荷降ろしの場所でもある。大規模なビルでは、トラックが進入できる高さや回転できる広さの荷さばき施設が建物内に用意され、荷おろし後は届け先まで台車が円滑に通行できるリアフリリーであってほしい。

路交通計画について、三車交通の概論であり、(1)部構成で十二回の予定で、(2)物流の役割と内容、(3)物流マネ

本連載の構成

第1部	物流と貨物車交通	(1) はじめに	(2) 物流の役割と内容	(3) 物流マネジメントと物流事業	(4) 貨物輸送と貨物車
第2部	道路交通計画	(5) 道路整備計画と物流事業者	(6) 交通管理計画と物流事業者	(7) 物流施設の計画	(8) 荷さばき施設と輸配送
		(9) 災害に備えたロジスティクス	(10) 弱い物流事業者	(11) ICTの活用	(12) おわりに(将来展望)
第3部	これからの物流				

※ノード=交通結節点の意味

貨物輸送と貨物車である。第二部は、発地に「流通センター」などの物流施設を、着地に「都心のビルや商店街」をイメージし、その間を「ハードな道路整備」と「ソフトな交通管理」があると考えて、(5)道路整備計画と物流事業者、(6)交通管理計画と物流事業者、(7)物流施設の計画、(8)荷さばき施設と輸配送を「分ける・減らす・換える」の視点から概説する。

第三部は、これからの物流と道路交通計画に関するトピックスであり、(9)災害に備えたロジスティクス、(10)弱い物流事業者、(11)ICT(情報通信技術)の活用、(12)終わりに(将来展望)である。

この連載が、業務の効率化や改善のヒントになることを期待している。